

第15回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣事業報告書

2019.8.5▶6



伊賀市・伊賀市教育委員会・伊賀市中学校長会

第15回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣団 参加生徒 紹介

崇広中学校
大仲 真三人



緑ヶ丘中学校
中村 修人



城東中学校
西岡 奏太



上野南中学校
今矢 智陽



柘植中学校
柘植 愛花



霊峰中学校
澤村 すず



島ヶ原中学校
町井 志帆



阿山中学校
中尾 美咲



大山田中学校
中 愛羅



青山中学校
稲森 帆風



伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業行程

7月26日(金) 事前学習会



8月5日(月) 出発式



8月6日(火) 解散式



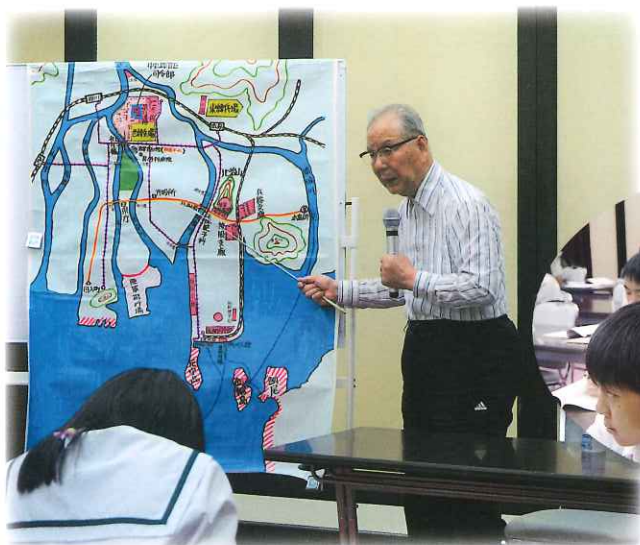
8月9日(金) 事後学習会 (報告会)



1日目 8月5日(月)

被爆体験講話

17歳の時に、爆心地から約6キロ離れた
かなわじま
金輪島で被爆された「江種祐司」さん
えぐさゆうじ
さんにお話を伺いました。



爆心地・原爆ドーム見学



爆心地を訪れた後、原爆の惨禍を伝え、
核廃絶と人類の平和を求める誓いの
シンボルである原爆ドームを見学しました。

折り鶴の献納

市内の公立中学生1人1人が
平和への願いを込めて折った折り鶴を、
平和の子の像へ捧げました。
また、1人ずつ
平和への祈りを込めて
鐘を鳴らしました。





広島平和記念資料館見学

原爆の恐ろしさを物語る、様々な資料を見学しました。



2日目 8月6日(火)



平和記念式典参列

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列しました。



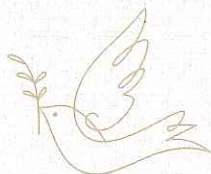
本川小学校見学

爆心地に最も近い学校だった本川小学校の資料館を見学しました。



おりづるタワー

おりづるタワーに上り、現在の広島街並みを見学しました。



崇広中学校 おお なか 大仲 ま さ と 真三人



私は、何度か広島を訪れていますが、平和記念公園や原爆ドームは、今回初めて訪れました。そして、原爆投下から74年後の平和記念式典に参加させてもらい、教科書では得られない貴重な体験をしました。

広島平和記念資料館では、さまざまな視点からの資料が展示されており、その中でも裂けてビリビリになった服が一番印象に残っています。それには、血が付いていて原爆の恐ろしさがにじみ出ていました。他にも、溶けて変形してしまったガラスのびんや弁当箱などがありました。爆心地付近では、三千度から四千度の高温になったそうです。人々は、一瞬にして炭になり、建物の鉄骨が曲がって倒れかけている、そんな絵も展示されていて、目をそむけたくなるような事実ばかりでした。

被爆体験者の江種さんのお話の中で、「核兵器と原子力発電がある限り人類は滅亡する。地球は壊れてしまう」という言葉がありました。その言葉が、とても印象に残っています。また、核兵器の恐ろしさを本当に理解している人は、まだまだ少ないと思うので、大勢の人々に、この広島や長崎のことを、知ってもらうことで、きちんと理解してもらい、平和を願う人を増やしていきたいです。そして、74年前の出来事を、過去のこととせず一人一人がしっかりと受け止めて戦争のない社会、みんなが平和に暮らせる社会を作っていきたいと思います。そのためにまずは、今回の広島派遣事業で学んだことを、家族や学校の仲間に伝えていこうと思います。



緑ヶ丘中学校 なか むら 中村 しゅう と 修人



僕が今回の広島派遣で一番心に残ったことは、江種さんからの被爆体験講話です。江種さんは、17歳の時に被爆され、放射線を浴び、今も病気に苦しんでいます。戦争は江種さんから、大好きな音楽を奪っていきました。また、昭和18年から19年8月まで、一度も授業を受けられなかったことを聞いて、僕は驚きました。その間ずっと、学徒動員が行われていました。自分達で、木造建築の船に弾丸やドラム缶帆布を積んで、運んでいたそうです。その仕事は、命がけで、一つ間違えたら、死んでしまうかもしれない仕事だったそうです。僕は、子どもたちの自由を奪い、多くの人を犠牲にした戦争は、繰り返してはいけないと思いました。

次に、本川小学校で見た原爆ドームの写真が心に残りました。原爆ドームは産業奨励館と呼ばれ、展覧会がたくさん開かれていました。その当時の建物は、レンガ造りでらせん階段には、赤いカーペットが敷かれていて、とてもきれいでした。そんなきれいな場所が、原子爆弾によって何十トンの力で押し潰されて、破壊されました。僕は、原子爆弾の恐ろしさを感じました。僕はこのことをもっと皆さんに伝えていきたいと思います。そして、皆が、戦争や原子爆弾について考えたら、平和な日本が作れると思います。



城東中学校 にし おか 西岡 そう た 奏太



僕は今回の広島派遣に参加させてもらって、たくさんのことを学びました。その中で最も印象に残ったことは、被爆体験講話です。被爆された方は江種さんという方で、17歳で被爆されました。江種さんは原爆の放射線の影響で被爆した数十年後にガンになったそうです。数十年後に病気にさせる放射線はとても恐ろしいと思いました。江種さんの息子さんもガンになり、亡くなられたと聞きました。直接被爆していない家族が原爆のせいで亡くなるなんて、どこに怒りをぶつけたらいいのかわからないと思います。

江種さんは学生なのに、学徒動員で一日も授業が受けられないのは、本当につらいと感じました。江種さんから、耳がとけていた人や、皮膚が爪だけにくっついた人がいたと聞いて想像できなかったです。戦争を体験した人しかわからないのは、戦争を知らない人間が過ちを繰り返すと思います。だから、被爆体験講話という貴重な話を聞いた僕たちは、次の人へ伝えていくという役目があります。一人でも多くの人に話を伝えていって、二度と戦争をしないようにしたいと思います。



上野南中学校 いま や 今矢 とも あき 智陽



僕はこの広島派遣を通して、自分の知らなかったことをたくさん学びました。それは、とても良い経験になりました。一日目に行った平和記念資料館で、印象に残ったのは、広島に原子爆弾が落ちる前から落ちた後までを再現し、一つの映像にしたものです。原子爆弾が落ちると広島は一瞬で火の海になり、何もかも焼き尽くされていました。衝撃的で怖かったです。そこで、改めて原子爆弾の恐ろしさを感じました。他にも、原子爆弾の熱で溶けて変形した弁当箱やボロボロの衣服などが展示してありました。たくさんある展示物の一つ一つが、人々の苦しみや悲しみを訴えているようでした。

74年経った今でも、苦しんでいる人や当時の様子を伝えようとしてくれている人がいます。だからこそ、今の自分にできることをしていきたいと思います。まずは、この二日間で学んだことを学校のみならず家族に伝えていきます。そして、少しでも核兵器廃絶に向けて、少しでも力になりたいと思います。



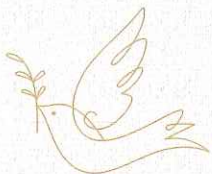


柘植中学校 つげ 柘植 まなか 愛花



私が広島派遣事業に参加して印象に残っていることは、平和記念式典に参加したことです。

特に広島市長のことばの中の被爆者の訴えが印象に残っています。それは「絶対にあのようなことを後世の人たちに体験させてはならない。私たちのこの苦痛は、もう私たちだけでいい」という言葉です。この言葉を聞いて、私は今もなお苦しみ続けられていて、いつまでも消えることのないこの苦痛を二度と味わわせてはならないという強い気持ちを感じ取りました。また、子ども代表の言葉の「自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにも出来ることです」という言葉も印象に残りました。普段の生活の中できちんと「ありがとう」や「ごめんね」の言葉をかけることで平和な世の中にする事ができると知りました。平和にするということは、決して難しいことではなく、一人一人が周りのことを考え、想いやることで実現できるということを学びました。今回実際に広島へ行って、自分の耳で聞いたこと、自分の目で確かめたことを周りの人に伝えて、一人でも多くの人の平和について考えるきっかけになればいいなと思っています。



霊峰中学校 さわむら 澤村 すず



この二日間、いろいろな場所に行かせていただいた中で一番印象に残っているところは広島平和記念資料館です。もともと一番行きたい場所だったので資料館に入るのを心待ちにしていました。私は三つのものが印象に残っています。一つは、ある一枚の写真です。それは入口のすぐ近くにあり、とても大きな写真で、一緒に行った友達とゆっくり見ていました。原爆が投下され廃墟となってしまった広島街の中に、夫婦のような人が小さく写っていました。男の人が女の人を抱きしめていて、女の人が泣きくずれそうになっていました。その二人はけがをしているようには見えなかったので投下されたあと来たのだろうと考えていました。この人たちの悲しみはどれくらいのものなのか、私たちには計り知れません。

次は、立体模型で、原爆が落とされた瞬間を映していました。本当に一瞬で広島町が荒れ果てた土地になってしまう光景を見て怖くなりました。この瞬間に何万人の人達が死んでしまったのだろうと思うと、さあっと背筋が凍りました。

最後は、ある一枚の絵で、母親が火だるまになりながら子どもに「逃げて」と叫んでいるものです。母を残していけず立ち止まっている子どもに「あとで追いつくから」と言い子どもを逃がした母親の姿が描かれていました。私は涙が出そうになるのを我慢していました。母親は、本当に追いついたのか、子どもはこのあとどうなってしまったのかと、いろいろな気持ちが浮かびました。母親も本当は助かりたかったはずですが、でも自分の命を犠牲にしても子どもを助けたかったというのが絵から伝わってきました。

世界中の人に広島平和記念資料館を訪れてもらうことが、原爆や戦争を無くす一つの方法だと感じました。国籍なども関係なく、たくさんの人に訪れてほしいと思います。



島ヶ原中学校 まち い し ほ
町井 志帆



私が今回参加した広島派遣で、強く印象に残っているのは、平和記念式典です。式典では、小学生の「平和への誓い」を聞きました。その中の「自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです」という言葉が特に心に残っています。私は今まで平和について学んだことはありましたが、戦争や原爆はどこか遠くの話のように感じていました。また、平和のために、自分から行動したこともありませんでした。そのような私が今回式典に参加し、原爆投下から74年経った今でも、沢山の人が式典に参加している様子を実際に見て、平和について考え、「二度とこのような悲惨な出来事を繰り返さないように」と願う人が大勢いることを知りました。式典に参加した人たちの多くは実際に原爆や戦争を体験していないのですが、皆が平和を願っていることや、私達にも平和のためにできることがあるということを実感しました。誓いの言葉の中にもあるように「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のままで終わらせないためにも、これからを生きる私たちが原爆について学び、平和について考え、行動していくことが大切だと考えます。そのためにも、実際に広島に行き、学んだ私たちがこのことを皆に伝えていかなければなりません。沢山の人の原爆や平和について、理解を深めてもらうことが平和な未来へと繋がる第一歩になると思います。私は、まず、家族や学校の皆に伝えることから始めていきます。



阿山中学校 なか お み さき
中尾 美咲



私は広島派遣で印象に残ったことが二つあります。まずは被爆体験講話です。実際に被爆した人から聴くお話は、生々しく、少し気分が悪くなるくらいでした。そんな光景が目の前に広がっていたなんて私には想像できませんでした。今まであまり深く考えたことがなかったけど、この講話を聴いて、「同じことを二度と繰り返してはならない」という江種さんの気持ちに深く共感しました。私も戦争のない平和な社会をつくるために何かできることがないかを考えるきっかけになりました。

次は平和記念式典や広島平和記念資料館に多くの人が訪れていたことです。子どもやお年寄りだけでなく、外国の方も式典や資料館にたくさん訪れていて驚きました。それと同時に「平和について考えている人がこんなにいるんだ」と感動しました。私はこんなにも多くの人、それも日本人だけでなく外国の方も原爆や平和について考えてくれていると思っていなかったもので、とてもうれしく思いました。

私はこの広島派遣を通して、今まで以上に戦争の悲惨さ、平和の大切さを感じ、考えることができました。ここで学んだことを他の人に伝え、知ってもらうことが、戦争のない平和な社会にするために私ができる第一歩だと思います。だから、私は家族や友達、学校の人など、一人でも多くの人に広島で見たこと、聴いたこと、感じたことを伝えていきます。そして私自身も戦争、核兵器のない平和な世界にするため、学び、考え続けていきます。





大山田中学校 なか 中 あい ら 愛羅



私はこの広島派遣に参加して本当にたくさんのことを学んだし、一緒に行ったみんなとも仲良くなれて自分にとって良い経験になりました。初めは不安しかありませんでした。みんなと仲良くなれるかなとか学んだことをまとめてきちんと伝えられるかなとか、もっとたくさんありました。でも本当にみんながよく話してくれるし優しいので、お互いに意見を交換しあったり聞きあったりできました。そうすると自分とは違った考えや思いを共有することができて、頼もしかったです。

被爆者の江種さんからお話を聞いたときは、写真なども見せていただき、痛々しい様子が蘇ってきました。話をしてくださっている時は本当に辛そうでした。ですがそれより、私たちに二度とこんな悲惨で辛い出来事は起こしてはいけないと訴える気持ちの方が強く感じられました。平和記念資料館でも同じでした。直視できないほど悲惨な物も多かったのですが、最終的には平穏な生活を祈るものばかりでした。平和記念式典では、小学生や被爆者代表の方々の平和を願う強い気持ちで、献花をされている様子などから感じられました。

この一泊二日で、戦争を二度と起こさないという、平和を願う気持ちを学び、自分でも前より強く思うようになりました。とても濃い二日間で本当に楽しかったです。この学んできた事を大山田中学校のみんなに伝えていきます。そこから家族や地域の方へ広まってほしいです。そのことが、平和へとつながる第一歩だと思います。



青山中学校 いな もり 稲森 ほの か 帆風



私は、日本が当事者の出来事なのに、唯一の核爆弾被爆国なのに、戦争は昔起こったことでよく知らないから、自分には関係ないと思っていました。そんな私が今年、修学旅行の長崎で学び、今度は広島で学ぶ機会を与えてもらいました。被爆したその場所で痛々しくたたずむ原爆ドームの姿は、整備された緑豊かな周囲の街並みや景観と違和感がありました。しかし同時に、74年という時間を超えて、「たった一発の爆弾がもたらしたこの惨劇を、今もなお続くこの苦しみを、絶対に忘れてはいけません。」と戦争のむごさ、悲惨さを私たちに強く訴えかけているようでした。

深い祈りに包まれた空気の中始まった平和記念式典では、世界各国から寄せられる恒久平和の願いに、心が震えました。訪れた先々で現実を見聞きし、短い時間でしたがそのことだけを真剣に考えました。そして、自分の思いを伊賀の同年代の人たちと話し合うことで、「戦争とは、平和とは」というものに対する自分の気持ちを確かめ直すことができました。私たちは、この場所だから、広島に行ったからこそ、大切に感じたことを持ち帰ってきました。私のこの思いを、みんなにも知ってほしいし、伝えなければならないと思います。





